

民生・児童委員用の専用アプリ好評

ペーパーレス、集計自動化 佐賀で実証実験



好評のタブレット端末を紹介する学生ら

大牟田市の有明高専電子情報工学科の学生7人が民生・児童委員の活動向けに開発した、タブレット端末の専用アプリケーションソフト(アプリ)が、委員らから好評だ。初心者に分かりやすい操作設定を心がけた点を受けており、学生は委員らから意見を聞きながら、改良を重ねている。

(小川紀之)

有明高専生が開発、改良

アプリは、佐賀県、佐賀市、日本マイクロソフト(東京都)、同市のシステム開発会社「木村情報技術」など7者が同市本庄地区で進める実証実験で使われている。民生・児童委員活動へのタブレット端末の導入を

目指しており、実験は2月に開始、今月末まで予定している。学生は木村情報技術のインターン生として参加している。

端末の導入によって、委員は大量の書類を持ち歩かずに済み、手作業だった集計が自動化できるなどの効率アップが見込まれている。

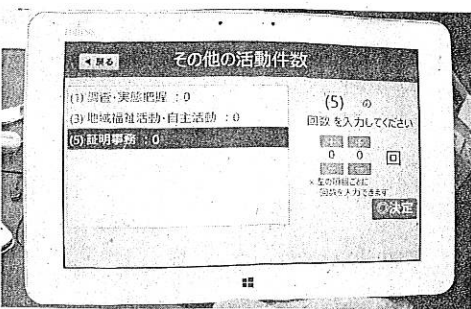
一方、同地区を担当する民生・児童委員22人の平均年齢は66歳で、端末を初め

て手にした人がほとんど。学生はソフト開発にあたり、アイコン(操作ボタン)の表示を大きくしたほか、高齢者の支援状況などに関する選択式で記入する項目を増やし、操作数を減らす工夫をこらした。

その結果、全委員が3週間で操作を習得。使いこなせるようになるよう、「詳しく書き込めるよう、タッチキーボードで入力できるスペースを広げてほしい」「活動記録の入力時に不要なアイコンを画面から外して」などの具体的な要望が出るようになった。

学生はその都度、バージョンアップ版を作成している。5年の国崎恒成さん(19)は「ユーザーの要望を受けて解決を探る実践を、学生のうちに体験できると思わなかった。貴重な機会」と言う。

学生が開発したアプリの画面



本庄地区の委員で佐賀市民生委員児童委員協議会長の石井智俊さん(72)は「学生は民生・児童委員の活動を一から学びながら、我々にとって使いやすいものになるよう努力してくれている。ありがたい」と話している。